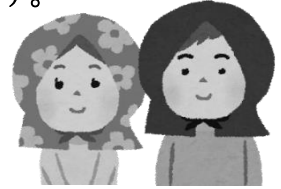


全国文学館協議会 共同展示「3.11文学館からのメッセージ」

天災を綴る—福井ゆかりの作家と天災—

福井ゆかりの作家が書いた、天災についての随筆や手記を紹介します。

期間：2月21日(金)～4月12日(日)



項番	作家名	種別	資料名	発行年	発行者
1	中野 重治	書籍	『中野重治全集 第十二巻』	1979年	筑摩書房
	日本共産党国会議員団代表として震災直後に来福したときの手記「出かけるまで」等を収録。被災者に寄りそい復興のため働く決意を綴っている。				
2	山本 和夫	書籍	『北陸路』	1948年	日本交通公社
	北陸の伝説や文学についての随筆集。東京に住んでいた山本は、本書の校正作業中に飛び込んできた福井地震の報に驚愕し、あとがきで友人の多田裕計、三好達治らの身を案じている。				
3	津村 節子	書籍	『時の名残り』	2017年	新潮社
	随筆集。夫、吉村昭ゆかりの長崎を来訪中に、夫婦の思い出の地である三陸海岸が天災に襲われたことを知り、衝撃を受けたことを綴る「号外」を収録。				
4	俵 万智 ほか	書籍	『ヨムヨム』2011年5月号	2011年	新潮社
	東日本大震災の直後、息子を連れ被災地を離れる決断をした時のことを綴る「知らない街で書籍浴」を収録。道中の複雑な心境を記している。				
5	宮下 奈都	書籍	『はじめからその話をすればよかった』	2013年 文庫:2016年	実業之日本社
	本や音楽、日々のことを綴ったエッセイ。東日本大震災の被害をリアルタイムで知り激しく動揺した時のことや、震災後も小説家として生きていく決意などを綴った「覚悟を決めた」を収録。				
6	—	写真	福井地震による北陸道の地割れ	1948年	—
	中野重治の生家に近い高棕村吉政(現・坂井市)付近の様子。福井地震では、道路、橋、鉄道などのインフラも壊滅的被害を受けた。所蔵:福井県立歴史博物館				
7	—	写真	東日本大震災1週間後の田野畑村	2011年	—
	三陸・田野畑村の被害を伝える。津村節子は震災を小説に取り上げるなど三陸の村々に寄り添い、2018年11月には田野畑村名誉村民となった。提供:岩手震災アーカイブ				



